浜石岳

浜石岳は、静岡市清水区の北東部に位置する標高 707mの山で、山頂からの見晴らしがよく、富士山や清水の街並みが望めることから、人気のあるハイキングコースとして知られています。

また由比駅から山頂までゆっくり歩いて3 時間ほどで、気軽に自然を楽しむことができます。

しょくぶつ

● ガマズミ

丘陵～山地などに生える落葉低木で、５～６月に多数の小さな白色の花を咲かせ、果実は９～11月に赤く熟します。

● イヌガヤ

常緑針葉樹の高木です。種子から取れる油は、寒中でも凍ることなく明るい光を放つため、屋外で使用する燈油としてきわめて優れていたと言われます。

● カントウマムシグサ

関東地方とその周辺の山林に生育するテンナンショウの仲間で、仏炎苞（花）は紫褐色～緑色で白色の縦縞があります。

● キンラン

ランの仲間で、４～５月に茎の上に黄色の花を３～12個咲かせます。山地の林の中で育ちます。

● ササユリ

山地の原っぱや、陽当たりの良い林の中に生えています。６月にうすい桃色や白い花を咲かせます。

● スミレ

日当たりの良い場所に生える多年草です。濃い紫色の花を横から見ると大工道具の“墨入れ”に似ていることが名の由来です。

● アキノタムラソウ

シソの仲間の多年草で、サルビアに近いグループです。７～11月に青紫色の花を咲かせます。

● ウツギ

山地～人里の日当たりの良い場所に生育する落葉低木です。アジサイの仲間で、５～７月にたくさんの白い花を咲かせます。

● フユノハナワラビ

冬緑性のシダ植物で、茎は直立し、“花”のように見える胞子葉をつけます。北海道～九州、種子島などに分布します。

● ヒメヤブラン

山地の木陰に生えるユリの仲間の多年草です。８～10月に多数の淡紫色～白色の花を咲かせます。

● シシウド

山地の日当たりの良い斜面に生えるセリの仲間の多年草です。茎の先に花火が開いたような白い花を咲かせます。

● ダイコンソウ

丘陵地～山地に生えるバラの仲間の多年草です。名は葉の形がダイコンに似ることに由来します。７～８月に黄色の花を咲かせます。

● アズマヤマアザミ

東北地方南部～近畿地方の主に太平洋側の山地の林縁に生えるキク科の多年草です。近縁種との交雑が見られます。

● ハナイカダ

葉低木で、葉の中央に１～３個（雌花）、または３～８個（雄花）の淡黄色～緑色の花がかたまって咲き、葉の筏に乗っているように見えます。

● ホウチャクソウ

ユリの仲間で、４～５月に花が咲きます。花は枝先に１個～３個ずつ付いて垂れて咲きます。

● ヤブデマリ

藪（ヤブ）に生え、手毬（デマリ）のような白い花を咲かすことが、名前の由来です。

● シラヤマギク

キクの仲間で、山地の乾いた草地や道端に生える多年草です。８～10月に白色の花を咲かせます。

● ナツトウダイ

丘陵地～山地に生える多年草で、茎の先に輪生する５枚の葉の上に赤紫色の小さな花を咲かせます。

● イタドリ

陽当たりの良いところに生える植物で、８～10月に白い花を咲かせます。スイバとも呼ばれ、食用になります。

● エゴノキ　実

丘陵地～山地などの雑木林に多く見られる落葉高木で、ヤマガラなどの鳥がエゴノキの種子を食べます。

● コマツナギ

野原や土手、林縁に生えるマメの仲間で、全体が草のように見える小低木です。７～９月に紅紫色の花を多数咲かせます。

● ゴンズイ

落葉高木で、春に緑白色の花を咲かせ、秋に赤い袋状の実をつけます。は荒れ地や林のまわりに育ちます。

● シロダモ　実

葉の裏が白くなるクスノキの仲間の常緑高木で、樹高は15mほどになります。東北地方から朝鮮半島、台湾、大陸に分布します。

● フキ（フキノトウ）

多年草で、早春に葉に先立ち花茎（フキノトウ）を地上に現し、その先端に密に筒状の花を咲かせます。

どうぶつ・とり

● ノスリ　留鳥

全長 60 ㎝くらいのタカの仲間で、山地から里で１年中見られます。ネズミなどを餌とします。

● カケス　漂鳥

全長 33 ㎝くらいで、山地の林に１年中すんでいます。雑食で、主に昆虫や果実を食べます。

● ニホンカモシカ

ウシ科の特別天然記念物ですが、最近数が増えてきており、昼間も見られる可能性が高い動物です。

● シマヘビ

体色は黄褐色で背中に４本の縞があります。気の荒いヘビなので注意が必要です。主にカエルやトカゲを食べます。

● コゲラ　留鳥

全長 15 ㎝くらいの小型のキツツキの仲間で、「ギィー,ギィー」と鳴きます。木の皮の下の虫をつついて食べます。

● ヒヨドリ　漂鳥

全長 28 ㎝くらいで、全身が灰褐色、長めの尾を持っています。低地から山地の林や、市街地でも１年中見られます。

● ニホンジカ

大型の哺乳類で、オスは立派なツノを持っています。近年数が増えてきて、樹木や植物の被害が多発しています。

● アオダイショウ

全長１～２mになる本州最大のヘビで、全身褐色をおびたオリーブ色です。主に小型の哺乳類、小鳥を食べます。

● アオゲラ　留鳥

全長 29 ㎝くらいのキツツキの仲間です。日本特産種で、平地から山地の林にすみ、樹に穴を開けて繁殖します。

● ツバメ　夏鳥

全長 17 ㎝くらいの小鳥で、繁殖のため、春に渡ってきます。「チュッピッ、チュッピッ、チュッピッ」などと鳴きます。

● ハクビシン

外来種で近年数が増え分布を広げています。鼻先が白いので白鼻心と言います。雑食で何でも食べ、木登りが上手です。

● ニホンマムシ

全長 45～60 ㎝で、全長に比して胴体が太い毒ヘビです。ネズミやリスなどの哺乳類やスズメなどの鳥類を主に食べます。

● リュウキュウサンショウクイ　留鳥

全長 20 ㎝くらいで、ほっそりとしています。近年、静岡県内でもよく見られ、飛びながら「ヒリ、ヒリ」と鳴きます。

● ウグイス　夏鳥

全長 15 ㎝くらいで、茶褐色をしています。低地から山地の草むらで見られ、繁殖期にオスが「ホーホケキョ」と鳴きます。

● アカネズミ

頭胴長は 8～14 ㎝、尾長は７～13 ㎝ほどです。低地～高山帯までの森林や田畑、川原の藪などに生息します。

● ヒガシニホントカゲ

山地～低地の陽当たりのよいところに生息し、小さな虫やクモなどを餌にします。幼体は青色、成体は褐色です。

むし

● アカハナカミキリ

体長 12～22 ㎜くらいで、翅の赤色が目立ちます。夏にシシウドの花の花粉を食べているのを見かけます。

● オオチャバネセセリ

丘陵地で多く見られますが、近年生息地で数が減少しています。里山的環境の変化や生息に適した林縁の減少などが一因とされています。

● ナガサキアゲハ

日本では最大級のチョウで、以前、静岡では見れないチョウでしたが、近年はミカン畑周辺でよく見られるようになっています。

● ツチイナゴ

淡い土色をした 50～70 ㎜のイナゴで、草のよく茂った野原にすんでいます。秋に成虫になり、そのまま冬を越します。

● コウヤホソカミキリ

体長 15～20㎜くらいで、山地に生息し、リョウブやノリウツギなど夏の落葉低木の花にやってきます。

● ジャコウアゲハ

はねを広げると 100 ㎜くらいのアゲハチョウの仲間です。オスは黒色で、メスは褐色です。ウマノスズクサを食草とします。

● クツワムシ

大型のキリギリス科の昆虫で、体は緑色や褐色です。オスは「ガチャガチャ」と大きな音を出します。クズの葉を食べます。

● ショウリョウバッタ

オスで 50 ㎜、メスで 80 ㎜くらいの大きなバッタです。雄は飛ぶときに「キチキチ」と音を立て、キチキチバッタとも呼ばれます。

● オオセンチコガネ

体長 13～22㎜くらいの糞虫の仲間です。地域によって金赤、金緑など色が違います。動物の糞を食べます。

● モンキアゲハ

日本最大級のチョウで、後ばねに黄白色の大きな斑紋があるのが特徴です。幼虫はミカン科の葉が好きです。

● アオマツムシ

体長 20～25 ㎜の緑色の体が特徴です。ツバキやサクラの樹上で「リーリーリー」と大きな甲高い声で鳴きます。

● クルマバッタ

トノサマバッタよりやや小さく、飛ぶとき後翅に車輪が回っているように見えるので、この名がある。

● アオドウガネ

体長 17～26㎜のコガネムシの仲間です。体はずんぐりで丸っこく、緑色の金属光沢です。成虫は、広葉樹の葉を食害します。

● アオスジアゲハ

黒地のはねに水色の筋があり、とても早く飛ぶアゲハチョウの仲間です。幼虫はクスノキの葉を食べて育ちます。

● スズムシ

日本の鳴く虫の代表格ですが、野生のスズムシを見る機会はあまりありません。翅を広げてすり合わせ「リーン、リーン」と鳴きます。

● ホソミオツネントンボ

体長 33～42㎜くらいのイトトンボの仲間です。オスは成熟すると青色となり、メスも薄い青色になります。成虫で越冬します。